

植生遷移—里山は今後どうなるのか—

桜島や伊豆諸島では流出年代の異なる溶岩流に各々違った植生が成立しています。このことから植生は一定ではなく、時間と共に変化することが明らかとなりました。このような溶岩原の裸地から始まる植生の変化は一次遷移とよばれ、高校の教科書にも載せられています。暖温帯(照葉樹林帯)の一次遷移の系列は研究者間での違いが大きく、統一的な見解はまとめられていませんでしたが、私達の2012年の研究で裸地→地衣・コケ群落→ススキイタドリ群落→クロマツ林→タブノキ(型)林→シイタブーカシ混交林という系列にまとめられることがわかりました。この系列は種子の散布型でみると風散布型→鳥散布型→重力散布型と変化しているのが読み取れます。

植生の変化は溶岩地帯だけでなく、全国どこでも見ることができますが、多くの場合、土壌がまったく存在しない溶岩原のような裸地からの遷移ではなく、土壌が残された伐採跡地や田畑の放棄地に生じている遷移です。このような遷移は一次遷移に対して二次遷移とよばれています。

私達の周囲に残されている里山をこの二次遷移の視点から調べてみましょう。昭和30年代以前の燃料や肥料を採取するために維持されてきた里山の多くは、アカマツ林でした。アカマツ林は用材や燃料確保のために数十年単位で伐採され、天然下種更新で再生されるという周期によって何百年以上にわたって利用され続けてきました。伐採後のアカマツ低木林からアカマツ高木林までの遷移段階で繰り返し利用されてきたと見ることもできます。

それが、昭和30年代に始まる燃料革命によって、またマツクイムシによる松枯れによってアカマツ林は大きく変化しました。林冠木のアカマツが衰退し、林内に生育していたコナラ、アベマキなどが林冠を占めるようになりました。アカマツ林から落葉広葉樹林へと大きく遷移したのです。里山が利用されていない現在、落葉広葉樹林の段階で遷移の流れが止まるわけではありません。現在コナラーアベマキ林の低木層や亜高木層にはアラカシ、ヒサカキ、ネズミモチ、ヒイラギ、ソヨゴといった照葉樹が繁茂し、次の段階へと動き始めています。六甲山の新神戸駅周辺では、すでにコナラーアベマキ林からアラカシ林へと遷移した所もあります。

里山は低林という低い林冠木から構成され、低木の散生す



平成25年用国土緑化・育樹ポスター原画コンクール文部科学大臣賞・国土緑化推進機構会長賞
(山口修平 2年 兵庫県立芦屋特別支援学校) (応募時)

る疎林のような樹林でした。それが現在では二次遷移によってコナラ、アベマキなどの落葉広葉樹の高林(樹高が高く、幹も太い樹林)化やさらにアラカシなどによる照葉樹林化が進んでいるということになります。このような樹林は歴史上一度も経験したことのないものであり、どのように管理すれば良いのかがわかっていません。兵庫県が進めている里山の夏緑高林化は一つの方法ですが、手を加えることができない大面積の里山は遷移にまかされたままになっています。六甲山などの急傾斜地では防災上も植生遷移に対する管理手法の検討が急務です。

公益社団法人兵庫県緑化推進協会運営協議会副委員長、
兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授 服部 保

森林ボランティア「でるくいわーくす」の森づくりの紹介

「でるくいわーくす」

平成12年11月に発足した森林ボランティア団体「でるくいわーくす」は、12年の充実した取り組みを評価され、「ひょうご森のまつり2012」において、ひょうご森づくり活動賞を受賞されました。

同団体は、国文学者 柳田 國男先生の生誕地である神崎郡福崎町の東部に位置する福崎町大貫地区を中心に活動し、西島 修一さんを代表に20名で構成されています。

平成21年度里山ふれあい森づくり事業を活用した里山林の整備（遊歩道の開設、ベンチの設置）、古墳の整備、「円筒はにわ」の作成などの活動を地域住民と連携して展開しています。

放置されていた「相山古墳」周辺は竹林に覆い尽くされていましたが、同団体の1年間の活動により、写真のようにきれいに整備され、現在では、子供から大人まで気軽にハイキング等ができる憩いの場として、地域住民に親しまれています。



整備された遊歩道とベンチの設置



作成した「円筒はにわ」とサクラの植栽

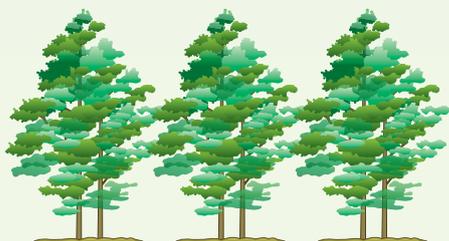
同団体による里山林の整備や相山古墳の整備は、構成員のみならず、広く地域住民にも呼びかけ、記念植樹大会を開催する等、地域をあげての取り組みとし、県民総参加の森づくりの推進に寄与しています。

整備された里山林に接する相山古墳一帯では、数多くの「円筒はにわ」等が出土して地域住民はもとより、県民の感動を得ています。

歴史の町、福崎町での「円筒はにわ」の作成は、小・中学生の歴史学習、こころ豊かな人格形成、調和ある地域の発展に資するものとして取り組まれています。



地域住民参加の記念植樹大会





県下の緑化推進委員会を訪ねて

シリーズ⑧

<養父市緑化推進委員会>

養父市緑化推進委員会は養父郡4町合併と同時の平成16年に設立され、今年で10年目を迎えています。

事務局は市農林振興課内に置き、自治会の協力を得ながら家庭募金を中心に活動を実施しています。

主な取組みは緑の募金を活用し、自治会が取組む緑化活動に対する助成や花の種子の配布、また緑の少年団の活動支援など地域の緑化活動を応援しています。

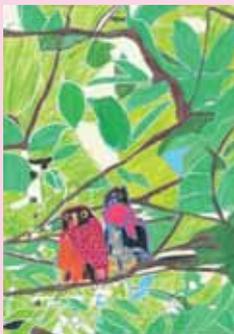
平成26年に当市で開催予定の「ひょうご森のまつり2014」に向け、市民の緑化意識の更なる高揚を図るとともに、市内の緑化、美化の拡大を進めてまいります。



平成24年度緑化作品コンクールの結果

緑化思想の高揚を図るため、県下の小学校の児童並びに中学校及び高等学校の生徒を対象にコンクールを実施しました。

応募点数は、緑化ポスター原画の部2,609点、緑化標語の部448点、そのうち入選点数はポスター原画の部32点、標語の部17点でした。特に優秀な作品をご紹介します。



兵庫県立芦屋特別支援学校
2年 山口 修平さん
(応募時)

文部科学大臣賞・国土緑化推進機構会長賞
育樹運動ポスターとして全国に配布する予定です



兵庫県立姫路工業高等学校
2年 田中 萌さん
(応募時)

国土緑化推進機構理事長賞

<標語>

国土緑化運動・育樹運動標語入選

たつの市立揖保川中学校 3年 満田 莉世さん
(応募時)

「育てよう

美しい森から 広がる未来」

県上位作品を(公社)国土緑化推進機構が主催する全国コンクールに応募した結果、ポスター部門で山口修平さん、田中萌さん、標語部門で満田莉世さんが入選しました。

<ポスター>

小学生の部1席



播磨町立播磨西小学校
3年 嶋崎 啓斗さん
(応募時)

中学生の部1席



三木市立三木中学校
3年 小林 実央さん
(応募時)

高学生の部1席



兵庫県立姫路工業高等学校
2年 田中 萌さん
(応募時)

<標語>

小学生の部1席

加古川市立若宮小学校 5年 永井 実鈴さん
(応募時)

「育てよう

みどりの森を 未来まで」

中学生の部1席

姫路市立神南中学校 1年 鯉田 朋樹さん
(応募時)

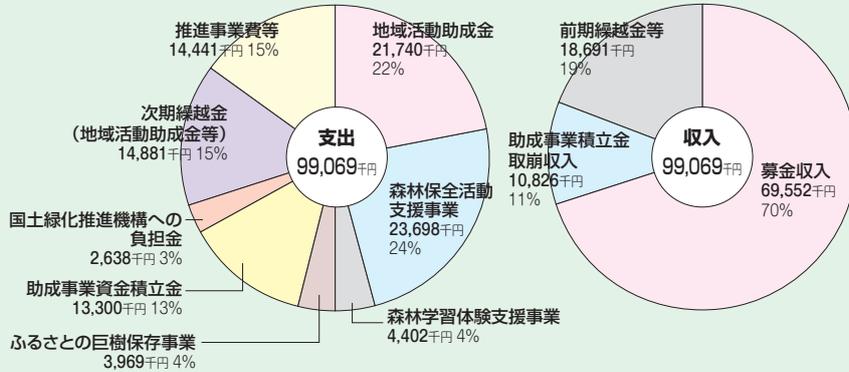
「残したい

緑いっぱい いい笑顔」

お知らせ

平成24年度 募金実績と使途

平成24年度は、69,552千円の募金をいただきました。皆様に厚くお礼申し上げます。



「緑の募金」にご協力をお願いします



森や緑は私たちの暮らしに限りない恵みをもたらし、豊かな地球環境を残してくれています。

このかけがえのない森と緑を守り育てていくために、「緑の募金」として家庭募金、学校募金、職場募金、街頭募金、団体募金、企業募金を県下各地域で行っています。

ご寄付の方法

ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振込をお願いします。

● 郵便払込

郵便振込の場合、公益社団法人兵庫県緑化推進協会に直接お問合せ下さい。専用の払込取扱票用紙をお送り致します。

● 銀行振込

口座：三井住友銀行兵庫県庁出張所
普通 3198438 (振込手数料が必要)
名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

募金の期間

春 3月1日～ 5月31日
秋 9月1日～ 10月31日

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL 078 (341) 4070 FAX 078 (341) 4071
URL : <http://www.hyogo-green.net/>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

